

# 羊蹄周辺地域における地域連携による活動について —シーニックバイウェイ北海道 ニセコ羊蹄エリアの取り組み—

小樽開発建設部道路計画課  
小樽開発建設部道路計画課  
小樽開発建設部倶知安開発事務所道路計画課

○渡辺 智恵子  
遠藤 学  
小杉 若菜

シーニックバイウェイ北海道において登録から10年が経過した支笏洞爺ニセコルートのうち、ニセコ羊蹄エリアでは、地域の活動団体と行政との連携により、地域の魅力向上等、地域景観の視点場づくりなど様々な活動を行ってきた。

本文は、当該地域における「みち」をきっかけとしたシーニックバイウェイの各種取り組みの成果、各種活動での課題や今後の展開について報告するものである。

キーワード：観光・景観、住民参加、地域活性化

## 1. はじめに

### (1) 支笏洞爺ニセコルートの概要

「シーニックバイウェイ北海道」とは、みちをきっかけに地域住民と行政が連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・活用の取り組みを進め、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを目的とした取組である。全国に先駆けて、平成15年度から試行的に進められ、平成17年度からは本格的な制度運用を開始しており、平成26年12月末現在、11の指定ルート、3つの候補ルートがあり、約400団体が活動をしている（図-1）。



図-1 シーニックバイウェイ北海道ルート図

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽国定公園の2つの国立・国定公園を走る「支笏洞爺ニセコルート」は、平成15年にモデルルートとして活動を開始し、平成17年度に指定ルートとして認定され本格的に活動を展開している。活動テーマは～美しい湖と秀峰、火山に出会えるルート～として支笏湖および千歳・恵庭を中心とする「ウェルカム北海道エリア」、洞爺湖や有珠山を中心とする「洞爺湖エリア」、羊蹄山周辺を中心とする「ニセコ羊蹄エリア」の3エリアで構成され、地域の発案のもと広域的に様々な連携活動を展開している。

支笏洞爺ニセコルートは、国道5号を含む国道6路線・道道9路線、関係自治体は17市町村から構成され、その面積は、約4,400km<sup>2</sup>と北海道らしい雄大で広大なエリアである（図-2）。

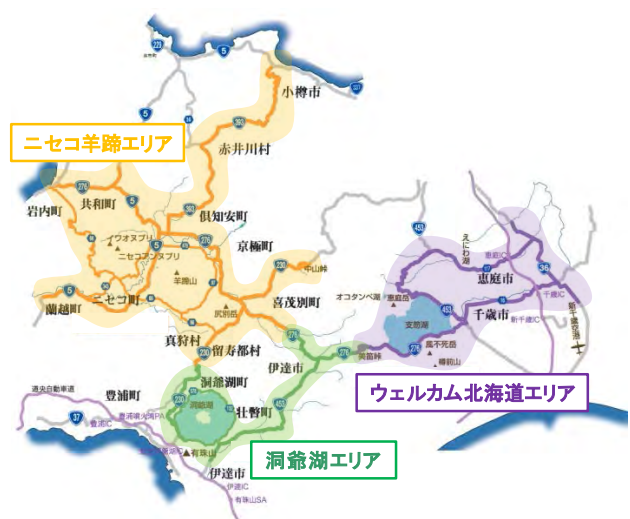


図-2 支笏洞爺ニセコルート図

そして、17市町村が含まれるこのルートは北海道の行政区分では、石狩振興局、胆振総合振興局、後志総合振興局に分かれ、北海道開発局の管轄では、札幌開発建設部、室蘭開発建設部、小樽開発建設部という、3つの振興局と3つの開発建設部を跨いだ広域による唯一のルートである。

### (2) ニセコ羊蹄エリアの概要

ニセコ羊蹄エリアは、札幌や千歳方面につながる国道230号、276号、羊蹄山の南側を走る主要道道岩内洞爺線、小樽につながる国道5号、393号を主な幹線道路としている。（表-1）蝦夷富士と呼ばれる秀峰羊蹄山が地域のシンボルとして存在し、その羊蹄山を印象的に眺めることのできるポイントが地域に点在しており、見る角度に

より表情が異なる羊蹄山の美しい姿を楽しむことができる。また、羊蹄山に向かい合うように尻別岳やニセコ連峰が存在し、美しい山岳景観を望むことができるエリアである。そうした自然景観を活かすため、ニセコ羊蹄エリアは、～羊蹄山とニセコの自然が与える感動のみち～をエリアテーマとして、地域のシンボルである『羊蹄山』やニセコ連峰、清流日本一に何度も輝いている尻別川などの景観資源を保全・活用する様々な活動を展開している。

表-1 ニセコ羊蹄エリアの関係自治体と主な幹線道路

関係自治体	蘭越町、岩内町、共和町、倶知安町、ニセコ町、京極町、真狩村、喜茂別町、留寿都村、小樽市、赤井川村
主な幹線道路	国道5号、国道276号、国道230号、国道393号、道道岩内洞爺線、道道豊浦京極線、道道京極倶知安線、道道蘭越ニセコ倶知安線

## 2. ニセコ羊蹄エリアの運営体制、活動状況

### (1) 運営体制について

各エリアの運営は、エリア代表者会議によって議論し、自治体と道路管理者からなる行政連絡会議との連携のもと各種活動が進められている。また、支笏洞爺ニセコルートでの運営においては、活動団体の代表による代表者会議によってルート全体に関することを議論しており、ルート三役は各エリアから選出された代表者3名で構成している。

### (2) 活動状況について

ニセコ羊蹄エリアでは、それを支える活動団体もさまざまな組織形態となっている。ニセコ羊蹄エリアにおける活動団体及び活動内容は（表-2）のとおり。

表-2 ニセコ羊蹄エリアの活動団体及び内容  
(平成26年3月末現在)

活動団体名	エリア	主な活動内容
共和町 商工会 青年部	国道276号 道道岩内洞爺線	神仙沼周辺道路の清掃 神仙沼の遊歩道整備の推進
京極町 景観を 考える会	国道276号 京極町市街 ふきだし公園周辺	国道沿いのビューポイント、吹き出しの沢川散策路沿いの清掃や草刈 シーニックナイト
NPO法人 きもべつ WAO	国道276号 国道230号 喜茂別町内	地域と連携したフラワーストリートの整備 国道沿いのビューポイントの清掃や草刈 シーニックナイト

村づくり 研究会	道道岩内洞爺湖線 真狩村内	フラワーロード事業 ウインターフェスティバルの情報発信
NPO法人 しりべつ リバーネット	尻別川流域 区間（喜茂別町～蘭越町）	尻別川流域の自然景観と文化の保全・維持・復元活動 流域文化の調査研究 ホームページによる活動発信
ニセコ 広域観光委 員会	道道蘭越ニセコ倶知安線と沿線	道道343号沿い、尻別川沿いの遊歩道の整備
NPO法人 ニセコまちづくり フォーラム	国道5号 道道岩内洞爺線 ニセコ町	花苗移植・管理による道路沿道環境整備 花フェスタの開催
NPO法人 WAO ニセコ羊蹄 再発見の会	国道276、393、5号 ニセコ羊蹄山麓エリア	景観改善への普及啓発活動 地域資源を活用した商品化 継続的な勉強会・講演会の開催 シーニックナイト
(株)ニセコ リゾート 観光協会	ニセコ町を中心とした 近隣町村	道の駅ビュープラザにおける情報提供とイベント開催 地域資源を利用した体験型プログラムの作成 シーニックナイト
らんごし WAO	蘭越町を中心とした羊蹄山麓周辺町村	勉強会・講演会の開催 隠れた地域資源の発掘・活用
るすつ WAO	国道230号 留寿都村内	花による「まちづくり活動」 (留寿都村社会福祉協議会、留寿都高等学校との連携) 隠れた地域資源の発掘・活用
北海道ワイン道 と緑を守る会	小樽市毛無山中腹、国道393号線 周辺町村	国道393号線（メープル街道）沿いの清掃活動 ワインを通じた後志の食材との連携等による地域の発展 シーニックナイト

## 3. 広域連携による活動展開の例

### (1) ビューポイントパーキング

～草刈り等による協働活動～

ニセコ羊蹄エリアには、ふと立ち止まりたくなるような魅力的な風景が点在している。当エリアの国道は交通量が多い路線が多く、撮影スポット付近に駐車スペースがないことによる路上駐車や通過車両のセンターラインはみ出し、路上での撮影による交通事故の危険性が生じていた。

そこで、小樽開発建設部では、地域住民や関係機関と継続的にワークショップや現地診断などを開催し、景勝地の選定や課題の抽出、整備目的の明確化などを図り、

その結果、平成16年度から現在に至るまで、ニセコ羊蹄エリア内において撮影スポットと駐車場がセットになった「ビューポイントパーキング」を6箇所整備している。(図-3、写真-1)

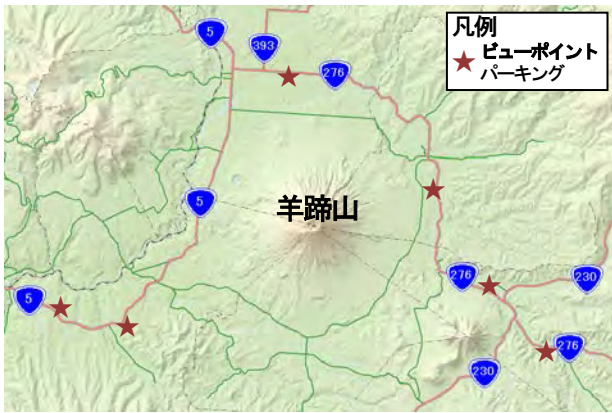


図-3 羊蹄山周辺のビューポイントパーキング



写真-1 ビューポイントパーキング  
(京極町更進地区)

このビューポイントパーキングにおける維持・管理を、地域の活動団体が主導となって草刈りや清掃活動を実施し、“美しい沿道景観づくり”と“快適な休憩スペース”の提供を目的として取り組んでいる。

平成23年までは、箇所ごとに各自治体の地域住民が実施していたが、地域では活動の継続性や作業の効率性に課題があった。そこで、地域と道路管理者が連携し、地域ニーズを踏まえた「道路空間の効率的かつ計画的な維持管理」として、3自治体(京極町、倶知安町、喜茂別町)が合同になり、活動団体同士の交流促進も図った一斉の草刈り及び清掃活動を試行した。(表-3、写真-2、写真-3)。この取り組みは現在でも継続しており、協働体制を確立することで人手を確保して活動の継続性につなげ、また、役割分担を明確にすることで作業の効率化を図ることを目標に実施している。このように、地域がそれぞれに誇りにしている景観ポイントや安全で楽しい道路空間づくりを、地域をまたいだ広域で共有し協働で取り組む姿は、地域内外に向けて魅力あるシーニックバイウェイとして効果的な発信につながると考えている。

表-3 ビューポイントパーキングの維持管理

- 活動内容：ニセコ羊蹄エリア内ビューポイントパーキング合同維持管理（草刈り・ゴミ拾いほか）
- 実施日時：平成24年8月8日 06:00～15:00  
平成25年8月1日 07:00～16:00  
平成26年7月31日 07:00～16:00
- 実施場所：倶知安町八幡地区、京極町更進地区、喜茂別町相川地区の各ビューポイントパーキング
- 活動の体制：参加者約30名
  - 1) シーニック活動団体
    - ・京極町景観を考える会
    - ・NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会
    - ・NPO法人きもべつWAO
  - 2) 関係自治体（倶知安町、京極町、喜茂別町）
  - 3) 道路維持業者
  - 4) 道路管理者（小樽開発建設部、倶知安開発事務所）



写真-2 駐車帯周辺の草刈りの様子  
(倶知安町八幡地区)



写真-3 駐車帯周辺の草刈りの様子  
(喜茂別町相川地区)

## (2) シーニックナイト

### ～住民参加による冬季沿道景観の演出～

ニセコ羊蹄エリアでは、冬を楽しむ新しいイベントとして、平成17年2月に「ニセコ雪原祭(主催/ニセコ雪原祭実行委員会)」が開催された。このイベントのルールは

地域内で「同じ日・同じ時間帯に一斉にスノーキャンドルやアイスキャンドルに火を灯す」という極めてシンプルかつ誰もが手軽に参加できるものだった。その手軽さとあかりが灯った時の幻想的な冬の夜の沿道景観が、訪れた観光客や地域住民にとっても好評で、その後も継続的に取り組まれることとなった。

そして、本取り組みは支笏洞爺ニセコルートの連携事業として発展に至っている。その背景を要約したのが（表－４）である。

ルートの連携強化と活動の継続やさらなる発展に向け、平成19年から3エリア連携による「シーニックナイト実行委員会」を設立、同年8月より規約が施行され（表－５）、現在、ニセコ羊蹄エリア内では6市町村、ルート全体では、11市町村が活動している。

また、実行委員会では“シーニックナイトサポーター（個人、団体等）”を募集し、そこから頂いた協賛金でシーニックナイトの運営に関わる費用を全て賄う仕組みにしている。さらに、シーニックナイトサポーター（個人、団体等）にはアイスキャンドルで使用するキャンドル（相当分）を差し上げることで、参加の動機付けにつなげる工夫をしている。

表－４ シーニックナイトの背景の要約

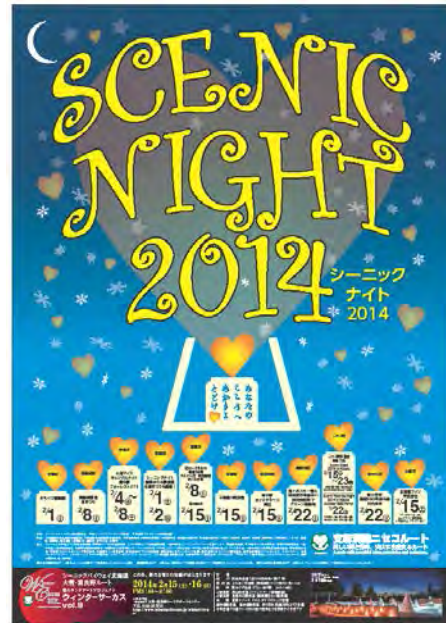
背景と目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>支笏洞爺ニセコルートを結ぶイベントのとして確立できる可能性</li> <li>ルート全体が共通目的で動く取組みとして実践できる可能性</li> <li>今後、ルート全体での連携活動する際の仕組みの構築と検証への可能性</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>たくさんの人が参加でき、楽しみながら雪のキャンドルを作り、冬ならではの沿道景観を創出</li> </ul>
関係者で共有した思い（ルール）	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンドルの販売、広告等で収益を上げ、収支を0以上で終わらせる</li> <li>可能な限り、広告の可能性や取組みの支持者を増やす</li> <li>キャンドル点灯が目標本数に到達しなくても良しとする</li> <li>決して無理な動員はしない(楽しく続けるためには、自然な拡大を期待)</li> <li>キャンドルの作り方や設置方法は、地域の実情にあわせて柔軟に実施する</li> </ul>
広域の取り組みの懸念材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>これだけの広範囲で行うと、来訪者が1日で見回することは不可能</li> <li>主要観光地以外への来訪者の誘導</li> <li>各地域での費用対効果を考えると仕掛けが不足</li> </ul>

表－５ シーニックナイト実行委員会の規約（抜粋）

目的	支笏洞爺ニセコルート内の連携を深め、ルート全体としてイベントを実施することにより「美しく活力ある地域づくり」、「周遊観光客の増加」、「シーニックバイウェイ北海道の周知」等を行う
----	------------------------------------------------------------------------------------------

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで楽しみ、思いを共有できる地域づくりの演出</li> <li>地域資源の活用による美しい道路環境の創出</li> <li>冬季観光宣伝並びに観光客誘致促進</li> </ul>
役員の任務	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員長は原則として任期を1年とし、エリア毎に持ち回り</li> <li>事務処理の円滑化を図るために事務局を置く</li> <li>事務局員は実行委員長が各エリア毎に2名程度任命し、役員が監督</li> </ul>

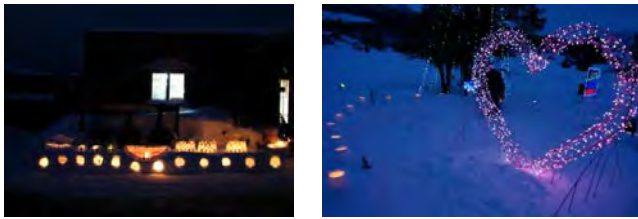
当初は同日、同時刻に一斉にキャンドルを灯していたが、回を重ねるごとに参加団体数が増加し開催地も広域になったため、現在は、1月下旬から2月下旬までの約2ヶ月間で、ルート内の沿道や人が集まる場所を会場として、地域の創意と工夫により思い思いにキャンドルを点灯している。（図－４）



図－４ シーニックナイト2014

平成26年は、主要沿道のほか小樽市「北海道ワイン」、ニセコ町駅前温泉「綺羅乃湯」、喜茂別町「郷の駅ホッとときもべつ」、京極町「三条通り商店街」、赤井川村「都小学校」ほか村内各箇所、倶知安町「峠下チェーン着脱場」、「旭ヶ丘スキー場」といった各会場でアイスキャンドル等の点灯を実施した。各会場で活動団体と地域住民が協力し、地域の積雪状況や地形に合わせ、それぞれ異なる冬の夜の景観を演出した（写真－４,５）。このイベント当日は、観光客や地域住民など、実施団体以外の多くの参加者が関わるほか、地域では様々な関連イベントも生まれ、新たな取り組みの足がかりとなっている。3つのエリアがそれぞれ自主的に関連イベントを企画・実施し、さらにそれを繋ぐことによりルート全体が広域連携した取組みとして地域内に定着し続けてい

る。中でも倶知安町では、活動団体と地元の小学生が廃油を使ったエコキャンドルの手作り体験や、地域住民と連携したキャンドルオブジェ制作、雪で作る巨大すべり台の設営など、将来地域を担っていく子ども達が大勢参加する取り組みとして着実に定着している（写真－6）。



写真－4 小樽市（左）、喜茂別町（右）



写真－5 赤井川村（左）、倶知安町（右）



写真－6 小学生との連携によるエコキャンドル作り

#### 4. 持続可能な広域連携の効果と課題

##### (1) シーニックバイウェイによる効果

「シーニックバイウェイ北海道」は、平成17年の制度開始から約10年が経過し、地域からの発案・自主性を尊重するという基本スタンスを中心に据え、「みち」をきっかけとした広域で活力ある地域づくりを推進している。現在、全道では14ルートにより各種活動が行われており、それぞれの成果や効果が見えはじめている一方で、10年の時間の経過と活動の中で見えてきた課題もある。

ここで、ニセコ羊蹄エリアの事例に基づいて、広域連携による効果について整理してみたい。

平成15年から活動を展開・継続している本ルートでは、まだ実績を重ねただけの可能性に過ぎないもののシーニックバイウェイを通じた連携のチャンネルによって、これまでに紹介してきた2つの事例（「ビューポイントパーキングの合同維持管理」「住民参加によるシーニックナイト」）にもあるように、新しいものを生み出し始めている。こうした経緯や実績を踏まえた上で、現時点では、以下のような効果が考えられる。

##### 【広域連携による効果】

- 交流促進によって顔の見える人のつながりが創出された。
- 単一自治体では成しえなかった観光周遊の促進を行政界を跨ぎ、連携で図ることが可能となった。
- 各地域の活動を組み合わせることでエリア一帯としての強み・弱みの共有認識が図れた。

シーニックバイウェイの効果は、前述したように、物理的に形のある成果以外に目には見えない効果が大いと考えられ、それらの効果は2年や3年の短期で創出されるものではない。その理由は、シーニックバイウェイというツールを通じて思いを共有した人と人の結びつきや活動参加という副次的効果が根幹となり、長く活動を続ける中でさらに広域な交流と協働に楽しさを見いだし、そこから自発的な活動を構築していくという、地道かつ確実な地域づくりがこの10年を振り返ってようやく見えてきたからである。つまりシーニックバイウェイは長期スパンでの評価が望ましい取り組みと言える。

##### (2) 今後の展開に向けた課題

シーニックバイウェイ制度から10年が経過し、各地域の実情や社会情勢の変化を踏まえながら、今後の持続可能な広域連携の推進とさらなる活動の発展に向けては、次のような課題が考えられる。

##### 【今後の展開に向けた課題】

- 地域に常駐できる人材や次世代を担う後継者・若手の人材育成
- 「みち」をきっかけとした、人・もの・お金がながる仕組み
- 地域内外に対するプロモーションを仕掛ける上でシーニックバイウェイのさらなる認知度向上

この10年間に社会背景に変化はあるものの、自然景観の保全育成や沿道景観の改善に対する地域住民の期待の意識は変わっていない。それはむしろ、時間の経過とともにその期待値が大きくなっていることが、日常的な活動団体との対話からうかがえる。

このことから、シーニックバイウェイは、「みち」をきっかけとした地域住民と行政による地域づくりであることを、これまでの10年の活動実績と併せて地域内外や幅広い世代に広く情報発信し、より多くの人々が取り組みに触れる機会を創出して思いを共有していくことが、前述した課題解決につながっていくものと考えられる。

おわりに、支笏洞爺ニセコルートのニセコ羊蹄エリアは平成26年に新たな自治体の参画もあり、次のステージに向けて新たな可能性を探っているところである。

広域な連携による顔の見える人のつながりと豊かな資源を活かした取り組みで、地域を「元気」にする。それがシーニックバイウェイの目指すビジョンである。支笏洞爺ニセコルートは発展途上であるが、そこには人のつながりといった地域づくりの大切な基本資源があり、これからの展開に期待したい。